

日本語を母語とする中国語学習者の誤用について

藤田 昌志

关于以日语为母语的汉语学习者在学习过程中产生的误用现象

FUJITA Masashi

《提纲》

本稿在第二章以日语和汉语表现上的差异为中心进行阐述。在第三章对于以日语为母语的汉语学习者在学习过程中产生的误用现象分四种情况进行了分析。第一，日语表现和汉语表现的对应。第二，在汉语中为直接表现，相对应的日语却为间接表现时所产生的误用。第三，在日语中为直接表现，相对应的汉语却为间接表现时所产生的误用。第四，在日语中表现手法恰当，但在汉语中却不恰当的误用。

1. 序

外国語学習で最も難しいのは、母語と外国語の表現のズレであろう。日本語母語学習者が中国語を学習する際も例外ではなく、両表現のズレの理解は中国語学習上、重要なポイントである。両表現のズレの理解は無意識な方法の学習によっても一定の成果が得られるであろうが、意識的方法による理解も成人学習者の場合には必要である。そして、そのためには両表現の相違についての意識的理解、意識的研究が必要になる。

本稿では 2. 表現のズレについて、で日本語と中国語の表現のズレについて中国語学習上のポイントを中心にして言及し、3. 日本語を母語とする中国語学習者の誤用について、では四つの場合に分けて誤用例分析を行うことにする。四つの場合とは 3.1 日本語表現と中国語表現の対応が一対二、又は多の場合の誤用、3.2 中国語表現が明示的 (explicit) で、対応する日本語表現が非明示的 (implicit) な場合の誤用、3.3 日本語表現が明示的で、対応する中国語表現が非明示的な場合の誤用、3.4 日本語表現としては適切であるが、中国語表現としては「適切さ」(appropriateness) を欠く場合の誤用、の四つの場合を指す。

誤用分析の資料としては『読む中国語世界』(日本通信社)のNo. 265~419 (2003年8月~2007年8月)に掲載された「絵を見て作文講座」の作文例(の添削、講評)を採用した。「絵を見て作文講座」は提示された絵を見て、150字程度の自由作文を作成し、FAX等で送付すると、優秀者の名前が掲載されるとともに、その中の一人の作文例が添削され作文講評が載せられるというものである。(423

号で終了し現在は行われていない。) 中国語作文例の最後に付けられた () 内の数字は「絵を見て作文講座」の掲載号のナンバーである。日本語母語中国語学習者の作文例、作文誤用例として貴重な資料と考えられるので採用することとした。その誤用分析は日中両言語表現の相違について知るための必須の分析であり、中国語教育上、大きな意味のある研究であると言える。

2. 表現のズレについて

日本語と中国語の場合、両言語の表現のズレとはなんであろうか。以下によくなされる一般的説明を提示し、筆者の考えを述べる。

1. 中国語は孤立語であり、日本語は膠着語である。中国語での文法関係は語順と一部虚詞(機能語)によって表されるが、日本語では助詞が多く、文法関係はその助詞によって表される。したがって、日本語で明示的な文法関係が中国語では非明示的となり、それは語順と一部虚詞によって表される。日本語の明示的な文法関係をそのまま中国語で表現すると冗長性(redundancy)が生じ、逆に日本語の非明示な表現等をそのまま中国語で非明示にしておくと言足らずな中国語表現になってしまうことがある。前者については減訳(日→中)が、後者については加訳(日→中)が必要になる⁽¹⁾。

2. 中国語はSVO型であり、日本語はSOV型である。中国語が「誰が何をどうする」という言語の型に属するのにに対して日本語は「どうする」については最後まで保留する言語の型に属すると言える。日本語は「何をどうする」より「何がどうなる」を中心として表現しようとする言語である。そこに両表現のズレがあり、転換(日→中)が必要になる。「受ケル」類の動詞と「与エル」類の動詞のいずれを選択する傾向にあるかといった問題が関係してくる⁽²⁾。

その他、中国語が声調を持つのにに対して、日本語が高低アクセントを持つこと、中国語が基本的に語順が固定しているのにに対して日本語がそうではないこと等が両言語の相違として挙げられる。

形式と意味という観点から中国語と日本語の表現のズレについて考察するとどうなるであろうか。

形式から両表現のズレについて考えると品詞や統語(“搭配”)が問題となる。まず品詞について述べる。形容詞のズレについて最も顕著なのは中国語が形容詞の過去形を持たないことである。形容詞の過去形の否定形も持たず、「昨日は寒くなかった。」は“昨天不冷。”となる。副詞については中国語では単音節形容詞は平叙文では“很”という副詞の修飾が必須であるが、日本語ではそのようなことはない。“我很好。”は日本語では「元気です。」でよい。

動詞のズレについては大きな問題が存在している。そのうち、最大のものは自動詞、他動詞と“及物動詞”、“不及物動詞”“動賓短語”で後ろに目的語を持たないものの相違である。

たとえば“重逢”は“不及物動詞”で“不能带宾语”(「目的語を持たない」)であり、*“重逢老同学，使我想起来了当年的中学生活。”(*は誤用を表す。以下同じ。)は、“与老同学重逢，使我想起

起了当年的中学生活。”と改めなければならない⁽³⁾。“出发”“分别”“工作”“见怪”“玩耍”“相识”“想得开”“歇”“招架”“走开”⁽⁴⁾といった“不及物動詞”についても同様のことが言え、日本語母語中国語学習者が動詞に目的語を続けて表現してしまう可能性の高い表現であるから注意を要する。

“動賓短語”で“后边不能带宾语”であるものも同様に気をつけなければならない。たとえば“道歉”を使用して*“在汽车上,我踩了一个人的脚,急忙道歉他。”とは言えず“在汽车上,我踩了一个人的脚,急忙向他道歉。”としなければならない⁽⁵⁾。“分手”“结婚”“举例”“离婚”“请假”“请客”“伤心”“上当”“算帐”“问路”“心服”“行贿”等の“動賓短語”も同様に後ろに目的語を持ってないから日本語母語中国語学習者には安易に動詞のあとに目的語を続け誤用例を産出しないように注意しなければならない。

中国語の動詞については以下のようなことにも気をつけなければならない。“打动”は“及物動詞”であるが“一般不能带补语”⁽⁶⁾であるから*“他看了这个电影以后,被打动得哭了。”という表現は許されず、補語を伴える動詞“感动”を用い“他看了这个电影以后,被感动得哭了。”と改めなければならない⁽⁷⁾。“辜负”は“及物動詞”で“一般要带宾语”であるから*“他说他要按照父亲的话去做,决不辜负”は“~, 决不辜负父亲的期望。”としなければならない⁽⁸⁾。動詞“后悔”は“动词性宾语”は持てるが“名词性宾语”は持てないから*“白井很后悔那件事”とは言えず“白井对那件事很后悔。”と改めなければならない⁽⁹⁾。“迷失”や“欺骗”は目的語を持たねばならないから*“和大家分手后,杰夫便在曲曲弯弯的胡同里迷失了。”は“~, ~迷失了方向。”に、*“我从来不欺骗。”は“我从来不欺骗别人。”に改めなければならない。目的語を持てる動詞と目的語を持ってない動詞の日中語間のズレには注意する必要がある。日本語と中国語の自動詞と他動詞、“不及物動詞”“及物動詞”の区別については先学の次のような鋭い指摘が存在する。英語のtransitiveかintransitiveかを決める、(1)前置詞を通さないで名詞を目的語として取るかどうか、(2)受動文を作ることができるかどうか、という二つの基準は日本語の「自動詞」「他動詞」、中国語の“及物動詞”“不及物動詞”を分ける基準にするには無理があり、日本語の「を」格を基準にして「他動詞」を決定した結果、(1)「家を出る」「道を歩く」に見られる「出る」「歩く」のような語が「を」格を取りながらも自動詞とされることになった、(2)「逆らう」や「ぶつかる」は「に」格を取ることから自動詞とされているが、意味基準から考えれば完全に他動詞であるし、受身も作れるから「に」格を取ること以外は他動詞の性格を持っているという矛盾が生じてしまった。(2)と同じグループのもので中国人日本語学習者が注意しなければならない動詞には「答える、慣れる、従う、迫る、逆らう、勝つ、負ける、耐える、反対する、賛成する、賛同する、反発する、追隨する、順応する、回答する、当たる、相当する、対応する、ぶつかる」などがある⁽¹⁰⁾。英語の基準を安易に他言語に援用することは厳に慎まなければならないことを示唆している。

統語 (“搭配”) 上のズレについてはとりわけ句レベル、文レベルで問題になる⁽¹¹⁾。直訳が不可能な場合である。結局は、中国語のdiscourseを頭の中に水路のように作るしかないのであろうが、ズレを明確に、意識的に認識することも学習上、必要であろう。

意味の観点から中国語と日本語の表現のズレについて考察すると、語レベルでは⑦意味のちがひ、ニュアンスのちがひ①口語／文章語⑧硬軟⑨対象⑩軽重⑪強弱⑫広狭⑬＋・中性・－評価⑭方向⑮他とのつりあい、などが問題となる。更に言えば名詞のトコロ性の有無、同形異義語、意味の重複の禁止などにも留意する必要がある。この点については次の3.1で詳述する。

この他、助詞(日)と“介詞”(中)、“結果補語”(中)のズレ⁽¹²⁾なども問題になるが、それは意識(日→中)と密接な関係がある。

日中両表現のズレについては語レベル、1文レベル、2文以上レベル、それぞれのレベルについて考察する必要があるであろう。

3. 日本語を母語とする中国語学習者の誤用について

3.1 日本語表現と中国語表現の対応が一对二、又は多の場合の誤用

3.1.1 日本語表現が一で対応する中国語表現が二、又は多の場合の誤用

日本語表現が一に対して、中国語表現が二、又は多の場合の誤用である。

⑦意味のちがひ、ニュアンスのちがひによる中国語学習者の誤用は最も多かった。

- (1) 各人有各人的好处和坏处((变)长处和短处)。(273) (注: A ((变) B) はAをBに変更することを意味する。)
- (2) 你的希望((变)愿望)一定能实现。(282)
- (3) 有一个小学生, 在学校上课的时候, 感到寒冷((变)浑身发冷)。(289)
- (4) 我到了图书馆后, 注意到那里非常寂静((变)安静)。(297)
- (5) 现在, 我觉得((变)发觉)钉扣子可不是件容易的事。(298)
- (6) 大海好像和白云连在一起一样, 我们一齐挥手高声欢声((变)欢呼)。如果有羽毛((变)翅膀)的话真想飞到高高的天上去, 不知是谁唱起歌。(314)
- (7) 这个班委员长((变)的班长)是个女孩子, 她很照顾班里小朋友。(321)
- (8) 他拍照的时候, 有一个小妹妹跑来, 往旁边看, 不小心碰到爸爸。可是他完全不介意((变)没注意), 专心继续拍照。(330)
- (9) 父亲明天要到大阪去出差, 所以检验((变)确认)一下明天他要带去的东西。(335)
- (10) 妈妈跟我说: “春节的时候, 你知道我家((变)家里)有点灯笼的习惯, 灯笼在壁橱里放着, 你拿出擦干净。”妈妈做的事不能拒绝, 没法子, 只能勉强强承担((变)照办), 把灯笼拿出来,

坐在椅子上开始擦了。(337)

(11) 今天她值班((变) 值日), 着急地去上学, 所以忘了喂兔子。(344)

(12) 宇宙飞船揭开宇宙的神秘的画皮((变) 面纱), 给我们看到宇宙真实的面貌。(377)

(1): “好处” “坏处” には「(人の) 長所、短所」という意味はなく、“好处” は「有利である点、役に立つ点」という意味でよく用いられる。(2): 自分の理想、夢という意味では“愿望” を多く用いる。“希望” は「希望を託すべき対象を指す」⁽¹³⁾。(3): “寒冷” は気候・天氣が「寒い」ことを表し、“发冷” は「寒気がする」ことを表す。(4): “安静” は「音がしない」こと、“寂静” は「誰もいなくて静かである」というニュアンスが加わる。(5): “觉得” は「(主観的に) 思う」ことを表し、“发觉” は「今まで明らかでなかったことが初めて認識される」ことを表す。(6): “欢声” は名詞、“欢呼” は動詞。ここは統語的に動詞を使うべき。「羽ばたくための羽根」は「翅膀」。(7): “委员长” は「正式な組織のリーダー」というニュアンスが強い。(8): “介意” は「何か悪いことを気にする」という意味。「気付かなかった」のであるから“没注意” がよい。(9): “检验” は「一定の基準に合うかどうかを精査する」ことを意味する。文中の意味は「確かめる」であろう。(10): “我家” は自分の家族以外の第三者に対する言葉。家族に対する言葉であるから“家里” が適当。／「母に言われていやいやする」のだから“照办” が適当。“承担” は「請負う」という意味。(11): “值班” は仕事に対して用いる。ここは学生が主体であるから“值日” が適当。(12): “画皮” は「化けの皮」。神秘のベールという意味だろうから“面纱” が適当。

㉗は表現したい日本語の意味が中国語ではより分化して、形が複数ある場合、不適當なものを選択したことによって生じた誤用であろう。この㉗の場合、日本語に比べて中国語の方が区別する基準がはっきりしているように感じられるが、それは中国語が意識的に基準を明確にしようとしているからであろう。又、基本的に一対二又は多(日本語対中国語)の関係による誤用であるから当然そう感じられるのである。これは他の㉑～㉓の場合も同様である。

㉑は口語／文章語に関する中国語学習者の誤用である。

(1) 有系红领巾的小朋友在树阴下聚在一起, 谈谈((变) 谈论) 班里的事情。(296)

(2) 这儿((变) 这 / 这里) 是郊区, 是大家休息的地方。(310)

(3) 有的孩子要得到彩灯撒娇让母亲((变) 妈妈) 为难, 有的孩子骑在父亲((变) 爸爸) 的脖子上被漂亮的彩灯迷住, ~ (404)

(1) の“谈谈” は口語。文章語は“谈论”。(2) “这儿” は口語的。“这 / 这里” の方がよい。(3) “母亲” “父亲” は文章語。ここは“爸爸” “妈妈” にした方が親近感が出てよい。

(2)など初級段階から注意すべき個所であろう。外国語学習は口語の会話学習から文章語学習へ向かうのが現在の主流であるが、成人が学習するのであり、更に中国文化は「文字の文化」である点が大特徴なのであるから、初級段階からの文章語の提示も今後の中国語教育では視野に入れていく必要があるであろう。外国語学習は英語教育の手法を無批判に採用しすぎて、今後は各国語の特徴を生かした外国語学習に移行していくべきであろう。

㊦は硬軟についての中国語学習者の誤用である。

(1)他喜欢画画儿,而且什么画儿都会,尤其是长于((変)擅长)山水画,~(320)

(2)有的小朋友跟她商谈((変)谈)苦恼,她就诚心诚意地待那个小朋友。(321)

(3)渔民打鱼时,他们家族((変)家人)祈祷上帝保佑渔民丰收。(325)

(1)の“长于”は正式すぎて硬く大人に対して用いることが多いので“擅长”に改める。(2)“商谈”は正式な言い方で硬いから、よりくだけた“谈”に変える。(3)“家族”は硬すぎるので“家人”に改める。

㊧は対象に関する中国語学習者の誤用である。

(1)女孩儿让他们的爱情((変)亲情)充满全身,可真幸福。(304)

(2)今天上语文课时,老师指名,让志强念课文。他的声音让人感觉身临其境,主人公的形象生动地呈现在我面前,他太能干((変)厉害)了!(373)

(3)下了课以后,相好((変)要好)的女孩子们聚在教室谈论理想的男孩子的脸。(397)

(1)“爱情”は男女間の愛情を指すことが多く、肉親の間の愛情は“亲情”を使う。(2)“能干”は仕事ができるという意味で、大人に対して使われている。“他”は子供であるから“厉害”ぐらいが適当。(3)“相好”は異性で仲がいい同士を指すので、同性が仲がいいことを指す“要好”に改める。

㊨は軽重についての中国語学習者の誤用である。

(1)我在我们班中最矮,所以有时别的同班同学都折磨((変)欺负)我。(266)

(2)请饶恕((変)原谅)我吧。(346)

(1)の“折磨”は深刻で重すぎるので、“欺负”に変える。(2)“饶恕”は重すぎるので“原谅”に変更する。

㊩は強弱に関する中国語学習者の誤用である。

- (1) 我决心((变)决定)单身赴任。因为,我刚盖了新房子,而且还有小学生的女儿的教育问题。(295)
(2) 现在,我发觉钉钉扣子可不是件容易的事。我第一次感觉((变)感激)父母之恩。(298)

(1)の“决心”は強すぎるので、物事を決める意の“決定”にする。(2)“感觉”は単に「感じる」意で“父母之恩”に対しては弱すぎるので強い“感激”に変える。

㊦は広狭についての中国語学習者の誤用である。

- (1) 前几天搬来的新邻居也是新同学,她想“我要好好照顾((变)关照)她——”,(298)
(2) 大夫说!“放心吧!没问题!你开始换牙了,所以从现在开始拔掉牙了”听了大夫的话她非常放心,想以后一直保重((变)保护)自己的牙。(352)

(1)の“照顾”は“关照”より具体的な「お世話」を指すが、ここではより広義の“关照”を使うのがよい。(2)の“保重”は相手の体を気遣う際によく使われるが、ここではより範囲の広い“保护”の方が適当。

㊧は十・中性・一評価に関する中国語学習者の誤用である。

- (1) 昨天我的朋友太郎拿来一个偶人。那个偶人就是太郎自己做的机器人。朋友们看他的机器人吓了一跳((变)很吃惊)。(349)
(2) 我看见我丈夫拉着女儿的手惜别,还很多人跟我们一样送亲属的,我痛感((变)感到)暖人肺腑,最后希望今后我家获得快乐。(393)

(1)の“吓了一跳”は悪い事柄に対して使われることが多い。中性的な“吃惊”を使うのが適当。(2)の“痛感”は不足していること、好ましくないことと組み合わせて使うのが一般的で、“感到”に変えた方がよい。

㊨は方向についての中国語学習者の誤用である。

- (1) 现在我家院子里开着很多玫瑰花,很好看。我每天用喷壶泼水((变)浇水),这是我的任务。(350)

日本語の「水を撒く」に対応する中国語には“泼水”“洒水”“浇水”の三つがあるが、“泼水”と“洒水”が広い範囲に「撒きかける」のに対して、“浇水”は上から下に「注ぎかける」意。ここでは“喷壶”(じょうろ)を使うので“浇水”が適当。

㊸は他とのつりあいに関する中国語学習者の誤用である。

(1) 他们喜欢谈论朋友、女朋友、学习、家里((変)家庭)等话题。(296)

“家里”はくだけすぎでいて、並列されている他の名詞とつりあわないから、つりあう“家庭”に変えるのが適当。

以上、㊶～㊸と、日本語表現が一に対して、中国語表現が二、又は多の場合の中国語学習者の誤用を見てきたが、日本語表現に比べて中国語表現の方が語レベルにおいて密な場合に生じる誤用であると言える。

3.1.2 中国語表現が一で、対応する日本語表現が二、又は多の場合の誤用

3.1.1の逆の場合の誤用であるが、主として中国語を母語とする日本語学習者の誤用と密接な関係がある。たとえば、(1) * 「いつも部屋にとじこもって勉強している私たちのような学生に対して旅行は命の洗濯のようなものです。」(2) * 「高い竜門山の上で立って遠い所をながめると…。」(3) * 「上海で美しい公園がたくさんあります。」(4) * 「どうしていつも切手を封筒のうらではるんですか。」(5) * 「妹はいつも母の前に甘えてばかりいる。」(6) 「この文章は前より難しいですか」 * 「いいえ、どんなに難しいか思いませぬ。」(7) * 「手紙を出しましたが読んだことがありますね。」といった誤用例が産出される⁽¹⁴⁾。

このケースの日本語を母語とする中国語学習者の誤用例は比較的少ないが文末の“了”など「新状況の実現」を表す⁽¹⁵⁾場合に、“他是大学生了”。という例は「彼は大学生になる。」「彼は大学生になった。」の二つの日本語が対応するが、それは文末の“了”がアスペクトに関するもので、テンスに関するものでないことに由来する。ともあれ外国語表現の分析に関わることであるから誤用は(1)の場合に比べて少ないと言えるであろう。

3.2 中国語表現が明示的 (explicit) で、対応する日本語表現が非明示的 (implicit) な場合の誤用

㊶中国語では場所を示さない一般名詞は方位詞を付けなければならないが日本語ではそれが非明示であることによる誤用、㊷日本語では「数詞“一”+量詞」が非明示であることによる誤用、㊸日本語で中国語の指示代詞(を含む表現)が非明示であることによる誤用、㊹“然后”“于是”などが非明示なための誤用、が「絵を見て作文講座」の作文例から抽出された。

㊶は「名詞のトコロ性」⁽¹⁶⁾の問題である。トコロ性を持つ名詞とトコロ性を持たない名詞の区分

が日本語と中国語では異なるところがあるので、その際に誤用が生じる。日本語の名詞がトコロ性を持つのに、対応する中国語の名詞がトコロ性を持たない場合には方位詞を付加しなければならないが、その付加を日本語母語中国語学習者が行わない場合に誤用が生じる。

- (1) 我对妈妈说!“每天添了很多麻烦,谢谢妈妈,我今天送给妈妈礼物。”然后我把杯子放在桌子上,把花束插在杯子((付)里)。(343) (注:A((付)B)はAにBを付加することを意味する。Aの下線は適宜、付けることにする。)
- (2) 过了一会儿,我们开始营火会,我们围在火炬((变)火边),边唱歌边跳舞,很有意思。(351)
- (3) 今天我们学校举行了联欢会。全校学生和他们的家长都集聚在学校的体育馆((付)里)。(372)

(1)の“杯子”はトコロ性を持たぬか、トコロ性が弱い名詞であり“里”を付加しなければならない。(2)の“火”も“边”を付加しなければならない。“我们围在火边弹吉他。”(我々は火を囲んでギターを弾く。)のように中国語では場所化が“边”と明示的であるが、日本語では「火」であり、非明示である。(3)の“体育馆”は「トコロ性を持つ名詞」であるから“里”は付加しなくてもいいのであるが、体育館の「中」であることを強調すべきであると作文の評者は考えたから“里”が付加されている。

①は中国語では明示される「数詞“一”+量詞」が日本語では非明示であることによる誤用である。日本語の名詞が無標識で単数を表す場合、中国語に訳す際に「数詞“一”+量詞」の加訳が行われないと、中国語の名詞は複数の意味になってしまう⁽¹⁷⁾というのが「数詞“一”+量詞」が加訳される一つの根拠となる。

- (1) “今天的午饭是我最喜欢吃的牛肉饭。我今天非吃不可!”保健员听了他的话,满面笑容地说:“你真是((付)个)食欲旺盛的小孩儿!”(289)
- (2) 姐姐说:“今天真热啊,我打算玩((付)个)游戏。”(303)
- (3) 明天是爸爸生日,所以我想给他买生日礼物。~我想出一个好办法。那办法就是自己做((付)个)生日礼物。(309)
- (4) ~。旁边的河马,((付)一副)“和我没关系”的样子,在水边单独玩。(370)
- (5) ~。妈妈就指着路边的((付)个)门口说:“你看,这儿就是“少年宫”,~”(385)
- (6) 有的((变)一个)放晴的星期天,我们五个小朋友一起去公园玩儿。(406)
- (7) 某((变)一个)冬天的早上,小王在院子里发现一个树上掉下的橙子。(410)

(1)は性質、特徴を表す場合に付加される“个”である。(2)(3)(5)などは複数ではないことを表

すための“(一)个)”であり、(4)など文学表現でよく見うける“一副”の付加である。(6)(7)は習慣的に付加された日本語の「ある晴れた日曜日」「ある冬の朝」の「ある」に相当する“一个”の付加である。(6)は“有一天”との混同による誤用例、(7)は硬い“某”を使ってしまった誤用例である。

「数詞“一”+量詞」はこの他「連体修飾語の始まりを示す標識」として表される場合や、「数量詞がなければ組み合わせられない言葉」や「数量詞がないと単独で使えない連語」の場合に明示的に表現しなければならない⁽¹⁸⁾から日本語母語中国語学習者には注意が必要である。

㊦は日本語で、中国語の指示代詞(を含む表現)が非明示であることによって生じる誤用である。

- (1) 星期天是我五岁的生日。((付)那天), 爸爸妈妈没有工作。
- (2) 到公园发现对((削))((付)这里是最适合)休息和聊天儿正合适((削))的地方。(312) (注: A ((削))はAを削除することを意味する。)
- (3) 我每天用喷壶浇水, ((付)这)是我的任务。(350)

(1)は父母が失業しているような意味にとらわれてしまうことを避けるために“那天”を付加する必要がある。(2)は“这里”を“发现”の目的語としての“主述句”の主語とするために付加しなければならない。(3)は文の前半部分をまとめる場合の加訳⁽¹⁹⁾としての“这”の付加である。

㊧は“然后”“于是”などが非明示なための誤用である。言語習慣上の理由が色濃い加訳(日→中)⁽²⁰⁾と密接な関係がある。

- (1) 我问妈妈:“妈妈!这本书值得买吗?妈妈说:“这本书值得买。”所以((变)然后), 她给我买了这本书。(299)
- (2) 我在公园吃了香蕉, 很好吃。以后((变)然后)按照妈妈的话, 把香蕉皮扔到垃圾箱里了。(327)
- (3) 水果很大很重, 奶奶要一个人拿起来, 可很重没能拿起, ((付)于是)让我们兄弟来拿了。(388)
- (4) 我们捡了各种各样的贝壳, 做夏天的纪念, 有的朋友((付)居然)找到的螺蛳, 既大又漂亮。(388)
- (5) 他拍照的时候, 有一个小妹妹跑来, 往旁边看, 不小心碰到爸爸。可是他完全没注意, 专心继续拍照。他孩子扶起她来, 他说, “不像话!爸爸真是个照相机迷。((付)竟然)没有注意到她, 只顾拍照。”(388)

(1)は「文章をよりすっきりさせるために」(299号作文講評)“所以”を“然后”に直したものである。(2)は文章をよりリズムカルに展開し、後に続いていくことを強調する(327号作文講評)ために“以后”を接続詞“然后”に変えたものである。(3)は「一つの事柄について、時間的なつなが

りがある時、また前の事柄を受けて後の事柄が行われる時に」用いられる(388号作文講評)“于是”を用いる。(4)は「思いがけないといったニュアンスを表現する“居然”を使うことで、より一層目を拾ったときの喜びを際立たせ」(395号講評)たものである。(5)は「意外さを強調する“竟然”を加えることで、より自然な表現」(330号講評)にすることができる。

他には“不由得”“再说”“竟”なども付加した方がより自然な中国語になる場合がある⁽²¹⁾。もっとも付加の理由は「文章をすっきりさせるため」とか「(文章が)後に続いていくことを強調」したり、「(感情を)際立たせ」たり、「より自然な表現」にするためといったもので、誤用例の産出を防止するためには不十分なものである。今後の研究が俟たれる。

この他、動作の到達点や方向、方式といった「具体性」、動作を表す動詞自身についての「具体性」が中国語表現では明示され、日本語表現では非明示な場合がある⁽²²⁾から日本語母語中国語学習者には誤用例を産出しないよう、注意する必要がある。

3.3 日本語表現が明示的で、対応する中国語表現が非明示な場合の誤用

この場合の誤用は減訳(日→中)と密接な関係があり、主として中国語を母語とする日本語学習者と関係が深いと言える。日本語母語話者の産出した誤用には次のようなものがあるが、中国語母語話者には冗長性(redundancy)が感じられる誤用である。

- (1) 昨晚吃的鱼一点儿不新鲜, 上学的(削)途中突然肚子疼, 就要拉肚子。(388)
- (2) 我计划约住在我家的(削)附近的同学一块儿做作业。(361)
- (3) 最近(削)中国第二艘载人航天飞船10月在酒泉卫星发射中心发射成功, 约有一个星期呆在宇宙空间里, 然后安全回来了。(388)
- (4) 我家有了三个人, 丈夫, 一个(削)女儿和我。(393)
- (5) 他自言自语地说, “是谁在路上扔的这块香蕉皮呢? 垃圾应该扔到垃圾箱里嘛。”他把那块香蕉皮扔进一棵(削)树阴下的垃圾箱里, 然后他心情舒畅地到小王家去了。(417)

(1)と(2)は日本語では明示的な助詞「の」をそのまま中国語でも“的”として表したために生じた誤用であろう。(3)は時間を示す名詞“最近”と時間を示す表現“10月”が意味の重複を起こしていると中国語では考えるので“最近”を削除しなければならない。(4)は「数詞“一”+量詞」をいつでも表現したらいいというわけではない例で、「一人」であることは分かりきっているから非明示にするのであろう。(5)は「树阴」で「木陰」という意味を表すので“一棵”+“树”とは考えられないから“一棵”を削除しなければならない。

減訳(日→中)との関係で3.3の場合の誤用を考えたとき、次のような日本語表現の場合は中国語

では非明示となる (ことが多い) ので注意を要する。非明示にしないと中国語母語話者は冗長性を感じ、不自然な、場合によっては誤用の中国語とみなすであろう。

- (1) 取り立て詞「でも」「ぐらい」「なんか」「も」
- (2) 「ようだ」(比況)「そうだ」(様態)が連体修飾語、連用修飾語になる場合
- (3) 「～ている」「～である」「～てしまう」「～ておく」等アスペクト類の表現
- (4) 指示語「それ」「その」等。「そんな」「そこで」「ここで」「それまで」「それから」等。
- (5) 過去の恒常的な動作を表す「～た」形の表現。(必ず減訳(日→中)にしなければならない。)
- (6) 日本語では「～た」形で表現されるが、動詞フレーズ(又は主述フレーズ)を目的語にとる中国語の動詞が統語上の制約から“了”を用いることができない場合。
- (7) 日本語の形容詞の過去の表現。(中国語の形容詞には過去形がない。)
- (8) 「わけ」「のだ」「ものだ」「ことだ」等のモダリティ表現。
- (9) 「～てあげる」「～てくれる」表現。
- (10) 「いつ行くか知らせてください。」の「か」等。

詳しくは拙著(2007)『日中対照表現論』(白帝社)の「第二章減訳(日→中)について」⁽²³⁾を参照していただきたい。

3.4 日本語表現としては適切であるが中国語表現としては「適切さ」(appropriateness)を欠く場合の誤用

この種の誤用は「適切さ」と関係が深く、転換(日→中)や意識(日→中)と密接な関係がある。まず受身文に関する誤用がある。

- (1) 我很喜欢哥哥。现在也我已经被((削))哥哥((付))先帮我洗完头,然后我等着他洗完后跟他一起洗澡。(388)
- (2) 我被((削))恰好走来的((削))一个朋友((付))走来,他对我说,“跌倒了要爬起来。”(306)

(1)は話者中心表現の日本語の受身文を動作主中心表現の中国語に転換しなければならない誤用例である。(2)も(1)同様に動作主中心表現に転換しなければならない。中国語の受身文は基本的に“不如意”(不本意)“不企望”(待ち望まない)ことを表すが日本語にはそうした制約がなく、話者中心表現との関係で受身文を把握しなければならない⁽²⁴⁾。そのことへの無認識が誤用例を生む。

受身文や方向補語、結果補語を含む文を“把”字句に転換しなければならない誤用例もある。次のようなものである。

- (3) 今年下雪下得太多了，连续下，下个不停。一望天际的雪，((付)把我家也被雪((削)埋没((付)了)。(339)
- (4) 妈妈跟我说：“我出门，阳台上晒着洗好的衣服，如果有((削)下雨你快快地收进((削))((付)就把衣服((付)收进来)吧。”(346)
- (5) 太郎的机器人很受同班同学的欢迎。我也想要一个机器人。我对太郎说：“我有件事想拜托你。可以借给我你的机器人一下吗((变)把你的机器人借给我一下吗?)”(349)

(3)は話者中心表現を動作主（この場合は雪）中心表現に、(4)(5)は処置を強調した表現に轉換しなければならないが(4)(5)は日本語母語中国語学習者には難しい轉換であろう。“把”字句と受身文、補語を含んだ文の使い分けについては今後、中国語教育の面から研究を進めていく必要があるであろう。

その他、次のような誤用例があった。

- (6) 我们划拳，决定妹妹先荡秋千。我((付)使劲推妹妹)好像把妹妹抛到空中，使劲推妹妹((削))。(348)
- (7) 苹果树和桔子树不是很高，我们一伸手就能摘果实，但是这些水果都又青又小，所以我们用梯子((付)爬上树)摘又大又黄的梨。(364)
- (8) 我们三个人下课以后，在体育馆打乒乓球玩儿。(中略)小李和小王拿起球拍就开始乒乓球((削))比赛。(420)
- (9) 水边还有漂亮的花。((变)，)花的名字我不知道。我想给她一支花。((变)，)不过一想还是算了吧。还有其他的朋友们。((变)在，)我不好意思给她。(415)

(6)は原因→結果の順序を重んじる中国語表現の順序にしなければならない誤用例である。(7)は日本語では省略される「木に登る」表現を補い、“用梯子”“爬上树”“摘～梨”とし、中国語的表現に轉換しなければならない。(8)は(7)とは逆に自明な“乒乓球”を省略しなければならない。(9)は日本語では短い文の連続でよいが、中国語表現としては不適切であるから“，”（逗号）で区切れるところはできるだけ区切るようにする。

(6)～(9)は時間的順序の表現、省略、母語では不必要な表現の追加、一文の長さの適切性など今後、考えなければならない問題である。

次の誤用例は意識（日→中）に関係の深いグループに属するものである。直訳的な日本語的表現を中国語的表現にする問題である。

- (10) 他(老师)微微一笑,说:“大家好!你们((付)的暑假都((削))愉快地度过了暑假吧((削))((付)吗?)” (265)
- (11) 我每天早晨都在公园里做广播操。刚刚开始做早操的时候,起得早不好受((变)我早上起不来),妈妈叫我叫得嗓子都哑了,我才起床。(277)
- (12) “你自己用小刀削皮((削))((付)苹果)吃苹果((削))。(285)
- (13) 我上初中以后,随着学习的内容渐渐地复杂起来,父母教给((削))我也是((削))((付)变得很困难的事情了((削))。(283)
- (14) 早上妈妈关于((削))((付)没有说要)出外的事没说话((削))。(297)
- (15) 他们举手告诉我把鼻子放在哪儿((变)鼻子应该放的位置)。(323)

(10)は「休みを楽しく過ごしましたか。」という日本語の直訳では不適切で「休みは楽しい(楽しかった)ですか?」という中国語にしなければならない。(11)も「早く起きるのがつらい」という日本語の直訳では不適である。(12)は「ナイフで皮をむいてリンゴを食べる」の直訳ではダメで、「ナイフでリンゴをむいて食べる。」という中国語表現にしなければならない。(13)(14)(15)も同様に中国語の表現に変えなければならない。

4. 結語

以上、2.表現のズレについて、3.日本語を母語とする中国語学習者の誤用について、で日本語母語中国語学習者の誤用について分類、分析、考察を行ってきたが、それら誤用例は、翻訳論(狭義の翻訳論というよりは広義の翻訳論)と密接な関係のあるものである。たとえば3.2は加訳(日→中)と、3.3は減訳(日→中)と、3.4は(広義の)転換(日→中)、意識(日→中)と密接な関係がある。日本語を母語とする中国語学習者の誤用例は日本語と中国語の対照研究に提供される重要な資料であり、誤用例研究は中国語、中国語教育研究に寄与する、欠くことのできない研究である。

〔注〕

- (1) 藤田昌志 (2007) 参照
- (2) 藤田昌志 (2007) pp. 96-97
- (3) 楊慶蕙主編 (1993)
- (4) 楊慶蕙主編 (1993) よりピックアップした。
- (5) 楊慶蕙主編 (1993) p. 179
- (6) 楊慶蕙主編 (1993) p. 168
- (7) 楊慶蕙主編 (1993) p. 168
- (8) 楊慶蕙主編 (1993) p. 276

- (9) 楊慶蕙主編 (1993) p. 308
- (10) 張麟声 (2001) pp. 53-56
- (11) 従来、あまり意識的に考えてこられなかった。
- (12) 藤田昌志 (2007) pp. 120-123
- (13) 伊地智善編 (2002) p. 1535
- (14) 藤田昌志 (2007) pp. 128-132
- (15) 郭春貴 (2001) pp. 275-276
- (16) 荒川清秀 (1992)
- (17) 藤田昌志 (2007) p. 3
- (18) 藤田昌志 (2007) p. 3, p. 17
- (19) 藤田昌志 (2007) p. 5
- (20) 藤田昌志 (2007) p. 15
- (21) 藤田昌志 (2007) pp. 15-16
- (22) 藤田昌志 (2007) pp. 9-15
- (23) 藤田昌志 (2007) pp. 20-41
- (24) 藤田昌志 (2007) pp. 49-75

【参考文献】

- (1) 藤田昌志 (2007) 『日中対照表現論 付：中国語を母語とする日本語学習者の誤用について』 白帝社
- (2) 楊慶蕙主編 (1993) 『現代漢語正誤辞典 (供外国人学漢語用)』 北京師範大学出版社
- (3) 張麟声 (2001) 『日本語教育のための誤用分析—中国語話者の母語干渉20例—』 スリーエーネットワーク
- (4) 伊地智善編 (2002) 『白水社 中国語辞典』 白水社
- (5) 荒川清秀 (1992) 「日本語名詞のトコロ (空間) 性—中国語との関連で—」 (大河内康憲編集 (1992) 所収) pp. 74-90
- (6) 大河内康憲編集 (1992) 『日本語と中国語の対照研究論文集』 くろしお出版
- (7) 郭春貴 (2001) 『誤用から学ぶ中国語』 白帝社
- (8) (2003. 8~2007. 8) 「絵を見て作文講座」 『読む中国語世界』 日中通信社所収No. 265~419の該当箇所

【付記】 本稿は中国語教育学会第6回全国大会(2008年6月7日、8日 於北九州市立大学)で口答発表した内容をもとに作成したものである。